

宮古市田老で防災を学ぶ

沿岸震災復興研修を実施

11月26日に沿岸震災復興研修を宮古市田老地区で行い、サイエンスアクセスで防災学習等を行っている1年生25名が参加しました。

宮古市田老地区は、明治29年と昭和8年の二度の津波で壊滅的な被害を受け、「万里の長城」とも称された防潮堤を作りました。しかし、東日本大震災では防潮堤を破壊した津波が町を襲い、死者・行方不明者を合わせて181名の被害を受けました。沿岸震災復興研修では、「学ぶ防災」の防災エコツアーに参加しました。破壊された防潮堤の上で本来の防潮堤の役割を学び、その後は震災当時田老第一中学校に避難した住民が、より高台に向けて避難した足取りをフィールドワークによって学びました。研修の最後には、震災遺構として保存されていくことになった「たろう観光ホテル」に入りました。「たろう観光ホテル」は、高さ17メートルを越えるとも言われる津波により四階まで浸水、二階までは柱を残して完全に流失するなど大きな被害を受けました。津波が町をのみ込む映像を、撮影されたその場所で視聴し、津波の恐ろしさを学ぶとともに防災に対する備えの大切さを胸に刻みました。



左上：破壊された防潮堤から説明を受ける生徒（写真右が海側、防潮堤の左側は町の整備が進む）

右上：津波で4階まで浸水した「たろう観光ホテル」（今年4月から建物内部の立入が許可）

左下：中学校に避難した住民がさらに高台へ移動した避難路のフィールドワーク（避難路はかなり急勾配）

中下：観光名所の三王岩でも津波の説明を受けた、 右下：津波の教訓を後生に伝える「大海嘯訓令碑」

